

島の本造船が一步も引かず、海上に連なっている姿は、本当に勇ましく誇り高いものでした。海上で抗議する祝島のお母さんたちが言った「いのちをかけて闘いよる」という言葉にとっても重みがありました。海上は残された最後の抗議の場。その後も24時間交代での抗議行動が1ヵ月近く続けられました。しかし、工定期限の迫る中、中国電力はたくさんのお船を雇い、まだ日が昇らない明け方の海に、別の場所から運んできた9基のブイを設置し、工事着工を宣言したのでした。2011年2月、これまでにない程の強硬な作業がはじまりました。夜中の2時、600人以上の作業員が雇われて現地の海岸へ押し寄せてきました。現地には私たちは懐中電灯の明かりの中、阻止行動を続けました。祝島からも漁師さんやお母さんたちが駆け付け、騒然となりました。夜も明けるころには、中国電力の職員も大挙してやってきて、工事開始の宣言をしました。海上を見渡すと至るところから土砂を積んだ台船が海上保安庁の高速船に護衛されながら、迫っていました。祝島の早掛けの船が懸命に保安庁の高速船をかくぐりながら、台船を阻むため近づ



こうとしていました。しかし、保安庁の船が追いつき進路を阻み、取り囲みました。事もあるうか、祝島の漁船に体当たりをした保安庁の船もありました。私たちのカヤックも海上で拘束されました。台船や保安庁の船はあまりにも多く、ついには埋め立て予定地に入られ、先祖代々受け継ぎ、30年近く原発から「いのちの海」を守ってきた祝島の漁師さんの目の前で、海底に土砂を落としていったのです。その後も、何隻もの台船が土砂を投棄しました。私たちの行動は、いのちや生活を守るための行動。最後まで非暴力で切実な行動が続けられました。

その数日後、福島第一原発事故が起きまし

## のらから 運動現場 運現

### 経産省前テントひろばで

映画好きの私は79年の『チャイナ・シンドローム』(J・フォンダ主演)、83年の『シルクウッド』(M・ストリープ主演)の中で、事故を告発しようとするのを妨害する会社側の凄さから、放射能の怖さを改めて学習した。作家の水上勉さんの「私の在所(郷里の事)の若狭は原発立地になってしまった」と話した諦めと嘆きの声は今も耳に残っている。それからは立地県の市民運動を応援するようにして来た。

た。そして今2年半が過ぎました。上関原発計画は白紙になるどころか、未だに手続きは進められ、拒否する漁師さんたちに漁業補償金を無理やり取らせようとしています。今なお祝島の住民をはじめ、多くの人がお金と権力で疲弊させられ闘いは続いているのです。一刻も早くこの新規立地の計画を白紙にしないでほしい。私たちの力は微力ですが、行動を続ける以上、必ずや本当の豊かさを取り戻し、大切なふるさとを受け継げるはず

(おかだ・かずき/1986年広島県三原市生まれ  
瀬戸ふるさと農園・ハチの干潟調査隊代表・上関  
原発阻止被団 写真も筆者)

谷 民子

今、福島の被災者を思うと、全くたまらない気持ちになる。少し想像力を働かせば、先祖代々暮らした土地を喪うことが年よりにとつてどんなに辛いことか。孫たちに遊びに来て貰えない。メディアは美談ばかり流すので忘れられてゆく。また、幼児を抱えて他所で暮らす若い母親の不安。地元に残った人との心の行き違いなどなど。書類やお金では頭れてこない胸塞がる思いを私は受け止めた。

# 脱原発テント

ANTI-NUCLEAR OCCUPY TENT



いと祈るばかりだ。

テントひろばは11年9月11日、山口県の上関原発建設反対運動の青年4名が経産省前で10日間ハンストをするのに連帯して、坐り込みなら老人にも出来るのと9条改憲阻止の会のメンバーがテントを張って始まった。この日、経産省をぐるっと包囲する第一回の人間の鎖も成立した。以後、原発いらない福島の人たちのテントも出来、ハンストや坐り込みの拠点となっている。勿論、夜間も泊まり込んでいる。郵便物、宅配便も霞ヶ関一丁目のテント宛で届く。自然に脱原発で繋がった助け合いのひろばとなっていた。三度目の冬だ。テントは居住用の物では勿論ない。ほんの受付ていどの物なのでなかなか厳しい。トイレもご近所さんの好意に頼っている。

12年5月の瀬戸内寂聴さん、澤地久枝さん

たちのハンスト参加のあと、6月から青年たちが首相官邸前で再稼働反対を訴えるデモを始めた。毎週金曜6時〜8時の、この金曜デモは多くの共感を惹いて、今も続けられている。

テントの前で坐っていると「初めてきたのですが……」と今でも道を訊かれる。

私は11年10月から週に1回は2、3時間、首からプラカードを下げて椅子に坐っているだけだ。その短い間にも情報は行き交い、初対面の人とでも話し合う。「峠の茶屋」と評した人がいるが、それで良いと思う。

海外からの取材も多く、すぐ放映されたものもあると聞く。それに引きかえ、日本のマスメディアは及び腰だ。

民主主義は可視化が大切だ。トビ態度デモソウヨトである。遠方で東京までは来られない人、仕事や介護で留守には出来ない人々の代わりのつもりで私は出掛けている。

経産省は国有地の不法占拠だと裁判に出て来た。私は全く逆だと思ふ。私はともかくとして被害を受けたのは国民のほうなのだから私は戦前・戦中の、時には命にも関わる「言わざる」の時代を経験している。

戦後、1947年から14年間、福島中通りの児童養護施設で孤児たちの世話をしてきた。阿武隈の山や川で遊んだ。当時の保母さん、園児たちで今でも県内で暮らしている人たちがいる。だから他人事では済まされない。

(13年10月27日記  
たに・たみこ／当会会員、88歳)

上の写真 右から2人目が筆者  
(座り込みは毎日実施、飛び入り大歓迎です)

## まつだたえさんから

「原発をなくそう芦屋連絡会」の依頼で、原発がテーマのマンガ「はるかのなやみ」を描きました。16ページの短編ストーリーマンガで、1冊100円で頒布しています。もしご興味があればぜひ、お知らせください。

阪神淡路大震災の時、オリックスの選手が「がんばろう神戸」と書いたユニフォームを着て、イチローが大活躍したことに励まされたのは本当ですが、「何で、今、東京オリックスよ？」と思っています。1946(昭和39)年の東京オリンピックの時は、子どもだったので、周囲の熱気につられて私も熱狂しましたが、あの時も冷やかな目で見ていた人はあったのでしょうか？(でも、敗戦後19年の日本と今とは、事情が違いますしね。)

注文先：原発をなくそう芦屋連絡会 事務局  
070-5699-5875 (池上) <http://assyagenpatsu.jugemu.jp/>

## はるかのなやみ

まつだ たみこ 作



芦屋NPP交流 原発をなくそう芦屋連絡会

事務局：070-5699-5875(池上) ブログ：<http://assyagenpatsu.jugemu.jp/>